

経済発展著しい ベトナムを学ぶ!

連合群馬第3回海外視察団は、5月17～22日の6日間、狗飼副会長（U・Iゼンセン同盟）を団長に総勢20名でベトナムを視察しました。ベトナムは南北で歴史・文化に大きな違いがあり、北部は首都ハノイ、南部は商業都市ホーチミンを視察しました。

日本国大使館・日本国総領事館の訪問では、ドイモイ政策（改革・開放）の進むベトナムの政治・経済概況や労働事情を学び、日本政府がベトナムと共同で取り組んでいる投資環境の改善施策について説明を受けました。

企業視察では「ホンダベトナム」のバイク組立ラインと「いすゞベトナム」の車両組立工場を見学しました。バイクはベトナム市民の足であり街中に溢れていましたが、車はまだ市民には高嶺の花のようでした。



ホンダベトナムが部品現調率を高めて市民のニーズに合わせた低価格商品を生産しているのに対し、いすゞベトナムでは部品をアセアン域内から調達し、ターゲットを富裕層に絞り込んで生産するなど、商品に合わせた企業戦略の違いを比較して見ることができました。

経済発展の陰に戦争の歴史もありました。クチの地下要塞トンネルは南ベトナム民族解放戦線の大規模な地下基地であり、アメリカ軍の空爆や枯葉剤散布に対抗するために掘られました。狭く蒸し暑い地下トンネルに入ってみましたが、とても耐えられず当時の兵士たちの精神的な強さ・執念を思い知らされました。

戦争証跡博物館では、枯葉剤の影響で生まれた奇形児の姿に、戦争の悲惨さと平和の尊さを強く実感しました。

経済発展著しいベトナムの政治・経済概況、労働事情を学び、勤勉な国民性と豊富な労働力を考えると、今後大きく変わることが期待でき、またいつか訪ねてみたいと思いました。

金属産業情報連絡会 工場見学会を開催

金属産業情報連絡会では、サンデン赤城事業所の見学会を5月13日に実施し、構成組織から35名が参加しました。

赤城事業所は私たちの生活に馴染み深い自動販売機や冷凍・冷蔵ショーケースをつくっており、部品加工から組み立て・塗装・物流センターなど、生産から出荷までが一体化されています。工場内の自動販売機（もちろんサンデン製）やカフェテリア方式の社内食堂は、Eddy（チャージ式のIDカード）で一括精算という福利厚生を含め画期的な事業所でした。また、塗装工場の一部では排水を気化させ、完全無排水を実現するなど自然環境への配慮も施されていました。施設内の見学後には、たいへん熱心な質疑と意見交換が行われました。



質問する羽鳥副代表幹事 ↓

↑代表あいさつをする
剣持副代表幹事



你好

JILAF
招聘

こんにちは
中国チーム

国際労働財団（JILAF）は、各国の若手労働者を毎年12チーム程受け入れ、日本の労働事情や産業経済を紹介する事業を行っています。14日間の日程で前半は労働講義、後半は地方連合を訪れ地方の実情や職場実態を視察しています。

今回、連合群馬に5月20～21日の2日間にわたって、中華全国総工会の王明然団長が率いる中国チーム10名が訪れました。

はじめに群馬県知事を表敬訪問、団員は緊張した面持ちで群馬県の産業や経済の説明を聞き入っていました。その後、連合群馬において産業別組合と連合群馬との役割分担などの説明を受け、意見交換を行いました。

王団長からは「2週間の滞在スケジュールで地域の実情や自然を見聞したい。貴重な経験を生かして中国の労働環境の改善に役立てたい。」と挨拶がありました。

翌日は勤労者の生活様式を視察するため、富澤副事務局長の自宅を訪問。また、ルネサステクノロジ高崎事業所の見学では、会社概要や労働組合の活動紹介が行われ、予定時間を大幅に上回る熱心な意見交換が行われました。



県を表敬訪問する団員